

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士前期課程・修士課程

### 【大学院 カリキュラムポリシー】

東京農業大学大学院は、本学の教育の理念「実学主義」に基づく農学あるいは生物産業学の教育を根幹として、実践的かつ高度な専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

<b>博士前期課程・ 修士課程</b>	<p>(1) 専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目などにより基盤を築き、選択科目により専門内容をさらに深化させる。</p> <p>(2) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力あるいはコミュニケーション能力を向上させ、実験科目により実験技術を修得し、演習科目により知識を深めるとともに発表能力や問題解決能力を増強する。</p> <p>(3) 修士論文の作成においては、指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して専門性を高め、論文の執筆、発表等を体得することにより、高度な研究者・専門家としての総合力を確立する。</p>
-------------------------	---

### 【研究科 カリキュラムポリシー】

<b>農学研究科</b>	<p>農学研究科博士前期課程・修士課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、農学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 各専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目を配当する。</p> <p>(2) 専門的知識や理解をさらに深化させるための選択科目を配当する。</p> <p>(3) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4) 実験技術の修得のための実験科目と、発表能力や問題解決能力を増強するための演習科目を配当する。</p> <p>(5) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・実習・演習科目を必修科目として配当する。</p>
--------------	--

<b>応用生物科学研究科</b>	<p>応用生物科学研究科博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」に、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」に、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目および研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」に、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式による専攻専門科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」に、指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>
------------------	---

<b>生命科学研究所</b>	<p>生命科学研究所博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、生命科学にかかわる研究者など専門職者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」に、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」に、研究者など専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」に、研究者など専門職者として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式による専攻専門科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」に、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>
----------------	--

<b>地域環境科学研究科</b>	<p>地域環境科学研究科博士前期課程は、地域問題、環境問題の具体的な解決に資する知識・技術・解決力を習得し、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」に、専門技術者として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」に、専門技術者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、研究倫理に対する理解力を高める科目及び研究の追考に求められる科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」に、専門技術者として必要な専門的知識を修得させるため、講義または演習形式による科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」に、指導教員による密接な指導の下に、問題発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>
------------------	---

<b>国際食料農業科学研究科</b>	<p>国際食料農業科学研究科博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる専門家としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、知的財産管理、研究倫理等に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び語学力を高める科目、各専攻で研究を推進するうえで基礎となる科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、専門的知識、分析力を習得させるための講義または演習形式により、適切な特論科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>
--------------------	--

<b>生物産業学研究科</b>	<p>生物産業学研究科博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、学部において学んだ生物産業学の根幹となる生産、加工、流通・ビジネスを各専攻においてより深く探求する実践的な専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 各専攻において共通して理解すべき学識を得るための特論科目を配当する。</p> <p>(2) 専門的知識や理解を深化させるための選択科目を配当する。</p> <p>(3) 研究者、教育者あるいは専門家として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4) 実験技術の修得のための実験科目と、発表能力や問題解決能力を増強するための演習科目を配当する。</p> <p>(5) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して修士論文の執筆と発表を行う科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p>
-----------------	--

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士前期課程・修士課程

### 【専攻 カリキュラムポリシー】

<p><b>農学</b></p>	<p>農学専攻博士前期課程は、農学全般にわたる幅広い知識・技術を駆使して、作物または園芸作物の生産、育種、農業環境、ポストハーベストおよび農作物にかかわる微生物などに関する専門家の総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 農学分野の各専門分野において、それぞれ理解すべき学識を得るための特論・特論実験科目を配当する。</p> <p>(2) 農学全般における専門的知識や理解をさらに進化させるための幅広い分野にわたる選択科目を配当する。</p> <p>(3) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、実験技術の習得、文献検察などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修科目として配当する。</p>
<p><b>動物科学</b></p>	<p>動物科学専攻博士前期課程は、動物生命・生産科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、動物科学関連領域にかかわる研究者や専門家としての総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 生命・生産科学分野において、動物関連産業での諸問題を理解するための科目を配当する。</p> <p>(2) 生命・生産科学の諸問題に自ら取り組むため、関連情報の精査、検証方法や解析方法および得られた結果を公表する手法を修得するための科目を配当する。</p> <p>(3) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、諸問題の発見、研究計画の立案と実施、理論的・建設的な議論、効果的な公表などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修科目として配当する。</p>
<p><b>生物資源開発学</b></p>	<p>生物資源開発学専攻博士前期課程は、農学を基盤に複合的アプローチを駆使して、農学にかかわる専門職者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもとに教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」には、専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」には、専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を向上させる科目、研究倫理を理解する科目、及び農学における専門的知識や理解をさらに深化させるための科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」には、専門職者として必要な専門知識・研究能力を習得させるために、講義または演習形式による科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」には、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う実験・演習科目を配当する。</p>
<p><b>デザイン農学</b></p>	<p>デザイン農学専攻博士前期課程は、「設計科学としての農学」を基盤に最先端知識・技術を駆使するとともに、イノベーション農学、およびサステナビリティ農学の二つの相互俯瞰的な視点を踏まえ、豊かで持続可能な社会の設計(デザイン)に貢献する専門職者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもとに教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」には、専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」には、専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を向上させる科目、生命倫理や研究倫理を理解する科目、さらにイノベーション農学、およびサステナビリティ農学に関する専門的知識や理解をさらに深化させるための科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」には、専門職者として必要な専門知識・研究能力を習得させるために、講義または演習形式による科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」には、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う実験・演習科目を配当する。</p>
<p><b>農芸化学</b></p>	<p>農芸化学専攻博士前期課程では、従来の農芸化学分野の各専門科目に加え、生体機能化学、分子細胞生物学、環境科学、遺伝子工学の専攻専門科目を配当し、高度な知識と技術を体系的に学修できるカリキュラムを実践し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 農芸化学専攻における諸分野において、それぞれ修得すべき知識や技術を得るための特論・特論実験科目および選択科目を配当する。</p> <p>(2) 農芸化学専攻における諸分野において、必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力向上のための科目を配当する。</p> <p>(3) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究計画の立案、文献探索、研究の実施、徹底的な議論や考察などの実践を通じて、修士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修科目として配当する。</p>
<p><b>醸造学</b></p>	<p>醸造学専攻博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な知的管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や技法を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び醸造学研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、醸造微生物学、微生物工学、酒類生産科学、発酵食品化学、調味食品科学及び醸造環境科学に関する科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、研究指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を必修科目として配当する。</p>

# 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士前期課程・修士課程

## 【専攻 カリキュラムポリシー】

<p><b>食品安全健康学</b></p>	<p>食品安全健康学専攻博士前期課程では、各専門領域における最先端の知識と技術を修得し、食品の安全性と機能性の両面を科学的に評価する研究を行います。その研究内容を実社会に発信し、柔軟性・機動性・問題解決力を兼ね備え、広く社会に寄与する人材(研究者)を育成するため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 農学研究科共通科目群は、修了後のキャリア形成に繋がる科目として、講義科目「知的財産管理法」と産業界との連携カリキュラムの「インターンシップ」を配当し、レポートにより評価する。</p> <p>(2) 基礎科目群は、高度な専門的知識・研究能力・倫理性の基盤となる科目として、必修講義科目の「食品安全健康科学概論」と「研究倫理」を配当し、レポートにより評価する。また、必修演習科目の「英語論文講読」と「プレゼンテーション法」は、ゼミや学会等での実践的な取り組みにより評価する。さらに、選択講義科目の「フードバイオケミストリー」、「フードモレキュラーバイオロジー」、「オミクス」を配当し、レポートにより評価する。</p> <p>(3) 必修専門特論科目は、両分野の高度な専門的知識・研究能力を養う科目として、講義科目の「食品安全科学特論」と「食品機能科学特論」を配当し、レポートにより評価する。</p> <p>(4) 選択専門特論科目と専門実験科目では、各領域の高度な専門的知識・研究能力を養う。講義科目として、「安全性分野」には「ケミカルトキシコロジー特論」、「リスク評価学特論」、「食品開発学特論」を、「機能性分野」には「生理活性物質学特論」、「生理機能学特論」、「生体環境解析学特論」を配当し、レポートにより評価する。実験科目として、「食品安全科学特論実験」と「食品機能科学特論実験」を配当し、レポートにより評価する。</p> <p>(5) 研究科目群では、修士論文を作成することを通じて、難度の高い問題を解決し、その結果を社会に対して的確に発信する能力を修得させる。演習・実験科目の「食品安全健康学特別演習Ⅰ～Ⅳ」と「食品安全健康学特別実験Ⅰ～Ⅳ」を配当し、修士論文作成指導を行い、その内容を審査する。</p>
<p><b>食品栄養学</b></p>	<p>食品栄養学専攻博士前期課程は、食品栄養学に係わる研究者、教育者あるいは専門家としての総合力を確立し、学位授与方針(ディプロマポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 食品栄養学の幅広い専門的基礎知識や技術、研究手法を主体的に修得させるため、選択必修科目として「食品機能学特論」、「栄養機能学特論」を配当する。</p> <p>(2) 国内外の最先端情報を収集し、課題解決のための分析とリーダーシップ発揮のための思考過程を論理的に説明する方法を修得させるため、選択科目として「論文英語」、「プレゼンテーション法」などを配当する。</p> <p>(3) 食品栄養学研究の高度な専門的研究手法を用いて課題の発見と分析力、研究遂行能力を主体的・継続的に修得させるため、必修科目として「食品栄養学特別演習」「食品栄養学特別実験」、選択科目として各専門領域の「特論」を配当する。</p>
<p><b>バイオサイエンス</b></p>	<p>バイオサイエンス専攻博士前期課程は、生命科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、生命科学にかかわる研究者、教育者あるいは専門家としての総合力を確立するため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) バイオサイエンス専攻の3分野において、それぞれ理解すべき学識を得るための特論・特論実験科目を配置する。</p> <p>(2) 生命科学における専門的知識や理解をさらに深化させるための選択科目を配置する。</p> <p>(3) 研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配置する。</p> <p>(4) 実験技術の修得のための実験科目と、発表能力や問題解決能力を増強するための演習科目を配置する。</p> <p>(5) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修とする。</p>
<p><b>分子生命化学</b></p>	<p>分子生命化学専攻博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、生命科学にかかわる研究者あるいは技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」には、研究者など専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、研究者など専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目及び分子生命化学の研究の遂行に求められる専攻基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、研究者など専門職者として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、「分子設計学」、「有機合成化学」、「ケミカルバイオロジー」、「分析化学」、及び「生命高分子化学」に関する科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う実験・演習を必修科目として配当する。</p>
<p><b>分子微生物学</b></p>	<p>分子微生物学専攻博士前期課程は、生命科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、分子生物学にかかわる研究者など専門職者としての総合力を確立するため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」には、研究者など専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」には、研究者など専門職者として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を向上させる科目、生命倫理や研究倫理を理解する科目、及び生命科学分野における専門的知識や理解をさらに深化させるための基礎科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」には、研究者など専門職者として必要な専門知識・研究能力を習得させるために、講義または演習形式による専門科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究科目」には、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う実験・演習科目を配当する。</p>
<p><b>林学</b></p>	<p>林学専攻博士前期課程では、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。森林環境保全学、森林資源生産学、森林資源利用学、森林文化情報学などの専門領域に関する科目を配当し、確かな知識と研究手法を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。</p>

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士前期課程・修士課程

【専攻 カリキュラムポリシー】	
<b>農業工学</b>	<p>農業工学専攻博士前期課程は、農業工学に係わる技術者、研究者あるいは教育者としての総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)地域資源利用学、生産環境・計画学、施設工学、農業生産システム工学における専門知識と、研究および論文作成手法を修得するための科目を体系的に配当し、コミュニケーション能力を増強できるカリキュラムを編成する。</p> <p>(2)地域資源利用学、生産環境・計画学、施設工学、農業生産システム工学における専門分野における特論科目を配置する。</p>
<b>造園学</b>	<p>造園学専攻博士前期課程は、造園計画・設計、造園施工・施設材料、造園植物・植栽の分野に関する知識と技術を通じて、造園学にかかわる研究者・教育者、専門技術者としての総合的な能力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)造園学の体系を理解し、専門分野において理解すべき学識を得るための総論、特論・特論演習を必修、選択必修科目に配当する。</p> <p>(2)造園学における専門的知識や理解をさらに進化させるための幅広い分野にわたる詳論を選択科目に配当する。</p> <p>(3)研究者、教育者あるいは技術者として必要な調査・コミュニケーション能力を向上させる選択科目を配当する。</p> <p>(4)指導教授または指導准教授や授業担当教員による密接な指導・支援の下に、課題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、実験・技術の修得、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う特論・実験演習科目を必修科目として配当する。</p>
<b>地域創成科学</b>	<p>地域創成科学専攻博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、地域創成科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、研究者・技術者等として必要な、プレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、生命倫理・研究倫理に対する理解力を高める科目、地域創成科学に関する実験・調査計画法、フィールド調査及び環境教育法などを修得するための科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、研究者や技術者等として必要な専門的知識・研究能力を修得させるため、講義または演習形式により、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学、及び地域デザイン学に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う演習科目、実験科目を配当する。</p>
<b>国際農業開発学</b>	<p>国際農業開発学専攻博士前期課程では、学問領域を統合する総合的アプローチと実践的で国際的な視野に立った教育を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)自然科学と社会科学の両領域で、それぞれ基幹となる科目を必修科目とし、総合的な知識を修得できるカリキュラム編成とする。</p> <p>(2)農業開発や国際協力にかかわる諸問題について学ぶことを目的とし、各研究領域をカバーする座学科目を選択科目として配当する。</p> <p>(3)農業開発や国際協力にかかわる研究手法を修得することを目的とし、各研究領域をカバーする実験・演習科目およびフィールド調査を選択必修科目または選択科目として配当する。</p> <p>(4)農業開発や国際協力にかかわる研究成果を、わかりやすく発表する技術を修得することを目的とし、論文作成法とプレゼンテーション法に関する科目を選択科目として配当する。</p> <p>(5)学位論文は担当指導教授または指導准教授が個別に指導するとともに、論文発表会を開催して専攻の全指導教授または指導准教授が評価に関与する。</p>
<b>農業経済学</b>	<p>農業経済学専攻博士前期課程は、農業および食料、環境の諸分野において、経済・経営・社会・地理・歴史等の社会科学の多面的な知識と方法を駆使し、農業経済学にかかわる研究者、教育者、あるいは専門家としての総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)農業経済学、農政学、食料経済学を基幹科目として配当し、修士論文作成のために、問題意識の醸成や研究方法・調査技術の修得が行えるよう特論および演習を必修科目として配当する。</p> <p>(2)指導教授または指導准教授や論文指導教員以外の多様な研究方法や研究視点を学べるよう選択科目を配当する</p> <p>(3)プレゼンテーション能力や議論の能力を高めるため、必修科目として総合演習を配当する。</p> <p>(4)制度的な枠組みを学ぶため、農業法に関する科目を配当する。</p>
<b>国際アグリビジネス学</b>	<p>国際アグリビジネス学専攻博士前期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な知的財産管理、研究倫理等に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として研究者・技術者として必要なプレゼンテーション能力や英語力を身につける科目、及び国際アグリビジネス学の研究遂行に求められる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として研究者・技術者として必要な専門知識・研究能力を修得させるため、農業経営組織学、農業経営管理学、農業経営戦略に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、調査研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う科目を配当する。</p>

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士前期課程・修士課程

【専攻 カリキュラムポリシー】	
<p><b>国際食農科学</b></p>	<p>国際食農科学専攻博士前期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門家としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、知的財産管理に関する科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」として、自然科学と社会学の両領域の知識を身につけ、国際食農科学の研究遂行に求められる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」として、専門的知識・研究能力を習得させるため、講義形式による植物生産学、食環境科学、食農政策、食農教育に関する科目を配当する。</p> <p>(4)「研究科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献検索などの実践を通じた修士論文の執筆と発表を行う科目を配当する。</p>
<p><b>北方圏農学</b></p>	<p>北方圏農学専攻博士前期課程は、本学の教育理念である「実学主義」に基づき、学部において学んだ生物生産学の根幹となる植物生産と動物生産ならびに生態系保全をより深く探求する実践的な専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)植物資源生産と動物資源生産にかかわる基礎的な学識を得るための特論科目を選択必修科目として配当する。</p> <p>(2)生物生産ならびに生態系保全にかかわる知識と理解を深化させるために、より高度で応用的かつ最新の科学的知見を得ることのできる選択科目を配当する。</p> <p>(3)研究者や教育者あるいは技術者などの専門性の高い職種や指導的立場に就いた際に求められる成果の発信に必要な論文作成に関する選択科目と、プレゼンテーション能力を向上させるための演習選択科目を配当する。また、指導教授または指導准教授の指導下において、自らの研究内容について学会発表や学会誌への論文執筆を目標としてその過程を通して学ぶ選択科目を配当する。</p> <p>(4)専攻する各専門分野における実験技術や調査方法の修得のための特論実験科目を配当する。</p> <p>(5)指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査研究の実施、得られた結果に対する議論と考察、文献探索などを実践し、その過程において修士論文の執筆と発表を行う特別総合実験を必修科目として配当する。</p>
<p><b>海洋水産学</b></p>	<p>海洋水産学専攻博士前期課程は、学部において基礎的に学んだアグリ・フードシステムを、より深く探求する実践的な専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)本専攻において共通して理解すべき生物学、増養殖学、資源学、環境学等に関する学識を得るための特論科目を配当する。</p> <p>(2)学生の研究テーマを進めるために必要な水産生物の生物学的特性、生態学的特性および環境学的特性に関する専門的知識や理解を深化させるための選択科目を配当する。</p> <p>(3)多様な水圏科学に関する専門性を活かした研究者、教育者あるいは専門家として必要な論文執筆、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための選択科目を配当する。</p> <p>(4)専門的な研究を実施するための実験技術修得のための実験科目と、発表能力や問題発見能力および解決能力を増強するための演習科目を配当する。</p> <p>(5)指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して修士論文の執筆と発表を行う科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p>
<p><b>食香粧化学</b></p>	<p>食香粧化学専攻博士前期課程は、食品・香料・化粧品に関する高度な専門知識と技術の学びを基本とし、農水産資源を食品、香料および化粧品として活用するための生物資源の機能性や品質管理、および応用にかかわる理論教育と実験を主体とした体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)食品、香料および化粧品に関する資源利用、バイオサイエンスについて理解すべき学識を得るため必修の特論科目を配当する。</p> <p>(2)食品、香料および化粧品に関する専門的知識の理解を深め、幅広い興味と知識を身につけさせるため選択の特論科目を配当する。</p> <p>(3)研究者、教育者あるいは技術者として必要なプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させるための表現技術や文献検索技術を学ぶ演習形式の選択科目を配当する。</p> <p>(4)生物資源の利用と機能性、品質管理に関連したバイオサイエンス技術修得のための実験科目を配当する。</p> <p>(5)指導教授または指導准教授による指導の下に、食品、香料および化粧品の開発加工、機能性、安全性に関する研究課題の選定、研究計画の立案、実験、考察および文献探索を実践し、修士論文の執筆と発表を行うための科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p>
<p><b>自然資源経営学</b></p>	<p>自然資源経営学専攻博士前期課程は、生物産業学を基盤として地域生物産業ならびに関連産業・地域企業および地域社会の持続的発展に寄与する人材を養成するためのカリキュラムを構築し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1)地域生物産業ならびに関連産業・地域企業および地域社会の持続的発展を支える高度な経営学・経済学に関する理論ならびに実践的な分析手法を修得する産業経営経済学分野にかかわる特論・演習科目を配当する。</p> <p>(2)地域生物産業ならびに関連産業・地域企業および地域社会の持続的発展を支える企業経営の理論と方法を修得する地域企業マネジメント分野にかかわる特論・演習科目を配当する。</p> <p>(3)研究者、教育者として必要な口頭発表を行う能力と、多様な発信力やコミュニケーション力を修得する学術論文作成法およびプレゼンテーション技術演習等を配当する。</p> <p>(4)指導教授または指導准教授による指導の下に、研究課題の選定から研究計画の策定、実態調査など研究の実施、理論の考察と文献探索を実施して、修士論文の執筆と発表を行う科目として自然資源経営学特別総合演習を配当する。</p>

## 教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士後期課程

【大学院 カリキュラムポリシー】	
東京農業大学大学院は、本学の教育の理念「実学主義」に基づく農学あるいは生物産業学の教育を根幹として、実践的かつ高度な専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。	
博士後期課程	(1) 各専攻分野の論文作成等に必要な総合的な実験、実習、演習科目を設置し、論文作成等にかかわる研究指導体制を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力を育成する。 (2) 博士論文の作成においては、指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、卓越した専門性を学び、高度な研究者、教育者、あるいは専門家としての総合力を確立する。
【研究科 カリキュラムポリシー】	
農学研究科	農学研究科博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、農学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1) 研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するための科目を配置する。 (2) 問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出および審査に合格するまでを指導教授または指導准教授が密接な指導を行う必修科目を配置する。
応用生物科学研究科	応用生物科学研究科博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)「研究科共通科目」に、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」に、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための科目を配当及び、国際的に活躍しうる人材を育成するため、研究者・技術者等に必要な語学力、コミュニケーション能力、情報発信力等を増強する科目を配当する。 (3)「研究指導科目」に、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。
生命科学研究所	生命科学研究所博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、生命科学にかかわる研究者、教育者など高度専門職者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)「研究科共通科目」に、研究者や教育者など高度専門職者として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」に、自立した研究者や教育者など高度専門職者として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための科目を配当及び、国際的に活躍しうる人材を育成するため、研究者や教育者など高度専門職者に必要な語学力、コミュニケーション能力、情報発信力等を増強する科目を配当する。 (3)「研究指導科目」に、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。
地域環境科学研究科	地域環境科学研究科博士後期課程は、地域問題、環境問題の具体的な解決に資する研究を行う能力と、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)「研究科共通科目」に、研究者・高度専門技術者として必要な研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」に、自立した研究者・高度専門技術者として必要な人材を育成するため、語学力、情報発信力等を増強する科目を配当する。 (3)「研究指導科目」に、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の独立した研究者としての能力を修得させるための科目を配当する。
国際食料農業科学研究科	国際食料農業科学研究科博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる先導的な研究者・教育者あるいは専門家としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)「研究科共通科目」として、研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」として、高度な専門的知識・研究能力を養うための、各専攻分野に適した専門科目及び、研究者・技術者等に必要な語学力、コミュニケーション能力等を増強する科目を配当する。 (3)「研究指導科目」として、指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元する能力を修得するための科目を配当する。
生物産業学研究科	生物産業学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、前期課程において学んだ生物産業学の根幹となる生産、加工、流通・ビジネスを各専攻分野においてより高度に探求する専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。 (1) 研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するための特論科目を配当する。 (2) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して博士論文を完成させるための科目として特別総合実験・演習科目を配当する。

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士後期課程

【専攻 カリキュラムポリシー】	
農学	<p>農学専攻博士後期課程は、農学全般にわたる幅広い知識・技術を駆使して、作物または園芸作物の生産、育種、バイオテクノロジー、ポストハーベストおよび農作物に関わる微生物や昆虫類に関する専門家としての総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野における最先端の知識と技術を修得し、コミュニケーション能力を増強するための科目を配置する。</p> <p>(2)問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出および審査に合格するまでを指導教授または指導准教授が密接な指導を行う特別研究科目を必修とする。</p>
動物科学	<p>動物科学専攻博士後期課程は、動物生命・生産科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、動物科学関連領域にかかわる研究者や専門家としての高度な総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)生命・生産科学分野において、動物関連産業での諸問題を理解するための科目を配当する。</p> <p>(2)生命・生産科学の諸問題に自ら取り組むため、関連情報の精査、検証方法や解析方法および得られた結果を国際的に公表する手法を修得するための科目を配当する。</p> <p>(3)指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、諸問題の発見、研究計画の立案と実施、理論的・建設的な議論、国際的な公表などの実践を通じた博士論文の執筆と発表を行う特別実験・演習科目を必修科目として配当する。</p>
バイオセラピー学	<p>バイオセラピー学専攻博士後期課程は、高度な知識と技術を駆使した教育を実践し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、課題設定、研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、文献調査、考察に関する議論などの実践を通じた博士論文の執筆と発表を行う特別研究科目を配当する。</p> <p>(2)研究者としての心構え、語学力、生命や研究費使用に対する確かな倫理観を教授する特別研究科目を配当する。</p>
生物資源開発学	<p>生物資源開発学専攻博士後期課程では、生物多様性や生物資源に関わるより高度な知識と技術を体系的に学修し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下のような方針のもと教育課程を編成する。</p> <p>(1)「研究科共通科目」には、研究者として必要な知的財産管理に関する科目と修了後のキャリアプランを構築させる科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」には、研究者・教育者として必要な科学英語力を向上させる科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」には、各専門分野をより深く学ぶための後期特論科目を配当する。</p> <p>(4)「研究指導科目」には、指導教員および指導補助教員による密接な指導の下に、研究計画の立案、文献検索、研究の実施、徹底的な議論や考察などの実践を通じて、博士論文の執筆と発表を行う特別研究指導科目を必修科目として配当する。</p>
デザイン農学	<p>デザイン農学専攻博士後期課程では、イノベーション農学分野(生物機能開発学、食資源利用学、食機能科学)、およびサステナビリティ農学分野(生活デザイン農学、社会デザイン農学)の各専門領域にまたがる幅広い学問領域から情報・知識・技術を駆使した教育を実践し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」には、事例をまじえた教育者・研究者として必要な知的財産管理に関する、研究者としての倫理観を涵養する科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目」には、教育者・研究者として必要な、英語論文執筆のためのスキル向上を目指した科目を配当する。</p> <p>(3)「専攻科目・特論科目」には、専門知識・研究能力として必要な専門知識・研究能力を習得させるための科目を配当する。</p> <p>「研究科科目」には、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆と発表を行う科目を配当する。</p>
環境共生学	<p>環境共生学専攻博士後期課程は、生物学、資源学および地域学を基礎とした総合科学分野の専門領域における総合的・複合的科目を通して実践し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもとに教育課程を編成します。</p> <p>(1)指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、環境共生学に関する研究手法などの実践を通じた博士論文の執筆および発表能力等を体得する特別実験・演習科目を配当する。</p> <p>(2)農学分野で環境共生学に関する高度な知識と独創的な研究能力を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。</p>
農芸化学	<p>農芸化学専攻博士後期課程では、専門領域における英語論文の作成、英語によるプレゼンテーション能力修得のための科目を配当し、研究内容を国内外の学会発表や学術論文において効果的に発信するためのカリキュラムを実践し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)農芸化学専攻における諸分野において、英語によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力向上のための科目を配当する。</p> <p>(2)農芸化学専攻における諸分野において、英語論文の作成能力向上のための科目を配当する。</p>
醸造学	<p>醸造学専攻博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための醸造微生物学、微生物工学、酒類生産科学、発酵食品化学、調味食品科学及び醸造環境科学に関する科目及び、研究者・技術者等に必要の語学力、コミュニケーション能力等を増強する科目を配当する。</p> <p>(3)「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p>
食品安全健康学	<p>食品安全健康学専攻博士後期課程は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、応用生物科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1)「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理及び知的財産管理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」として、自立した研究者・技術者等として必要な高度な専門的知識・研究能力を養うための生体分析科学、リスク評価学、食品開発学、生理活性物質学、生理機能学及び生体環境解析学に関する科目を配当及び、研究者・技術者等に必要の語学力、コミュニケーション能力等を増強する科目を配当する。</p> <p>(3)「研究指導科目」として、研究指導教員による密接な指導の下、自ら主体的に研究を展開させる博士論文の作成を通じて、より難度の高い問題を解決し、さらなる課題を設定して課題解決に向けた成果を社会に還元し、当該分野の先導的な専門家として独立できる能力を修得させるための科目を配当する。</p>

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士後期課程

【専攻 カリキュラムポリシー】	
食品栄養学	食品栄養学専攻博士後期課程は、食品栄養学に係わる高度な研究者、教育者あるいは専門家としての総合力を確立し、学位授与方針(ディプロマポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)食品学および栄養学領域の最新情報の取得と、様々な食・健康問題における課題設定とその解決能力を主体的・継続的に修得させるため、必修科目として「食品栄養学特別研究」を配当する。
バイオサイエンス	バイオサイエンス専攻博士後期課程は、生命科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、生命科学にかかわる研究者や教育者など高度専門職者としての総合力を確立するため、以下の方針の下に教育課程を編成します。 (1)「研究科共通科目」に、研究者や教育者など高度専門職者として必要な知的財産管理及び生命倫理や研究倫理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目、特論科目」には、研究者、教育者など高度専門職者として必要な知識・研究推進能力を養うための科目と、国際的に活躍しうる人材を育成するために必要な語学力、コミュニケーション能力、情報発信能力を習得するための科目を配当する。 (3)「研究指導科目」には、研究課題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出及び審査に合格するまでを指導教員が密接に指導する科目を配当する。
分子生命化学	分子生命化学専攻博士後期課程では、化学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、分子生命化学にかかわる高度な研究者・専門家としての総合力を確立し、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)「生命科学研究科共通科目」には、研究者としての自立に必要な知識を修得するための科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目」には、研究者など専門職者として必要な英語力を向上させる科目を配当する。 (3)「専攻科目・特論科目」には、研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野における最先端の知識と技術を修得するための科目を配当する。 (4)「研究指導科目」として、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出および審査に合格するまでを指導教授が密接な指導を行う科目を配当する。
分子微生物学	分子微生物学専攻博士後期課程は、生命科学を基盤に最先端知識・技術を駆使して、分子生物学にかかわる研究者など専門職者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。 (1)「生命科学研究科共通科目」には、研究者など専門職者として必要な知的財産管理に関する科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目」には、研究者など専門職者として必要な英語力を向上させる科目を配当する。 (3)「専攻科目・特論科目」には、研究者など専門職者として必要な専門知識・研究能力を習得させるために、特論科目を配当する。 (4)「研究科目」には、問題の発見から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆、提出および審査に合格するまでを指導教授が密接な指導を行う特別研究科目を必修とする。
林学	林学専攻博士後期課程では、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。森林環境保全学、森林資源生産学、森林資源利用学、森林文化情報学などの専門領域における科目を配当し、高度な知識と創造的な研究能力を体系的に学修できるカリキュラムを編成する。
農業工学	農業工学専攻博士後期課程は、農業工学に係わる研究者、高度な技術者あるいは教育者としての総合力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。農業工学の専門的課題を自ら解決できる能力を獲得させるため、抽出能力、分析能力、企画能力を養うことを目的とし、コミュニケーション能力や問題解決能力を増強できるカリキュラムを編成する。
造園学	造園学専攻博士後期課程は、造園学にかかわる専門的学理、高度な知識と技術を駆使して、研究者・教育者、専門技術者として研究手法と応用能力・技術を発揮できる体系的な能力を確立し、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)研究やインターンを通じた専門分野における造園学の最新知識と技術を修得し、コミュニケーション能力などを確立するための科目を配当する。 (2)研究課題の発見から研究計画の立案・実施、発表や考察などの実践的な議論を通じた博士論文の作成、論文提出から審査・学位取得に至るまでの密接な指導を行う特別研究を必修科目とする。
地域創成科学	地域創成科学専攻博士後期課程では、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、地域創成科学にかかわる高度専門研究者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。 (1)「研究科共通科目」には、研究者・技術者等として具備すべき高い生命倫理観、研究倫理観を身につけさせる科目と、修了後のキャリア・プランを構築させる科目を配当する。 (2)「専攻科目・基礎科目」には、国際的に通用する研究者・技術者等として必要な英語力(読解力及び論文作成能力)を身につけさせる科目を配当する。 (3)「専攻科目・特論科目」には、研究者や技術者等として必要となる高度な専門的応用知識と研究能力を修得させるため、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学及び地域デザイン学に関する科目を配当する。 (4)「研究指導科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆と発表を行う演習科目を配当する。

教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)博士後期課程

【専攻 カリキュラムポリシー】	
<p><b>国際農業開発学</b></p>	<p>国際農業開発学専攻博士後期課程では、広範な学問領域を統合する総合的アプローチと実践的で国際的な視野に立った教育を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るために必要な自然および社会科学におけるフィールド研究から先端科学技術の修得までを統合的に学修できる教育課程を編成する。</p> <p>(2) 農業開発や国際協力にかかわる高度な知識を修得するため、担当指導教授または指導准教授が個別に指導する「国際農業開発学特別研究」を必修科目として配当する。</p> <p>(3) 研究の遂行、専攻内研究発表会での報告、学術雑誌への投稿、博士論文のとりまとめなどを内容とする「国際農業開発学特別演習」を必修科目として配当する。</p> <p>(4) 専攻内研究発表会には専攻の全指導教授または指導准教授が出席し、発表者に対してコメントや意見を述べる。</p>
<p><b>農業経済学</b></p>	<p>農業経済学専攻博士後期課程は、農業および食料、環境の諸分野において、社会科学の多面的な知識に加え、特定の専門領域に関して高度な専門知識と方法を駆使し、農業経済学にかかわる高度な研究者・専門家としての総合力を確立し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) プレゼンテーション能力や議論の能力を高め博士論文を完成させるため、必修科目として総合演習を配当する。</p> <p>(2) 博士論文の作成のため、農業経済学を中心とした社会科学の視点から問題発見を行い、文献調査、フィールドワーク、計量分析などを踏まえた理論的・実証的研究が行えるよう、指導教授または指導准教授が密接な指導を行う。</p>
<p><b>国際アグリビジネス学</b></p>	<p>国際アグリビジネス学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学に関わる研究者、教育者あるいは高度専門技術者としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「研究科共通科目」として、研究者・技術者等として必要な研究倫理に関する科目と実践力を育む科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目、専攻科目・特論科目」として、国内外で活躍できる言語能力を身につけるための英語科目を含む基礎科目を配当し、自立した研究者等として必要な、高度な専門的知識・研究能力を養うための特論科目を配当する。</p> <p>(3) 「研究指導科目」として、指導教員による密接な指導の下に、自ら主体的に問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、調査研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などの実践を通じた博士論文の執筆と学術研究発表を行える、自立した研究者となるための科目を配当する。</p>
<p><b>国際食農科学</b></p>	<p>国際食農科学専攻博士後期課程では、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、国際食料農業科学にかかわる研究者、教育者あるいは高度専門家としての総合力を確立させ、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。</p> <p>(1) 「国際食料農業科学研究科共通科目」として、研究倫理及びインターンシップに関する科目を配当する。</p> <p>(2) 「専攻科目・基礎科目」として、高度な研究発表の手法を修得する科目を配当する。</p> <p>(3) 「専攻科目・特論科目」として、専門的知識・研究能力を習得させるため、講義形式によるより専門性の高い植物生産学、食環境科学、食農政策、食農教育に関する科目を配当する。</p> <p>(4) 「研究指導科目」として、指導教員による密接な指導の下に、問題の発見・研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献検索などの実践を通じた高度な博士論文の執筆と発表を行う科目を配当する。</p>
<p><b>生物産業学</b></p>	<p>生物産業学専攻博士後期課程は、本学の教育理念「実学主義」に基づき、前期課程において学んだ生物産業学の根幹となる生産、加工、流通・ビジネスを各専攻分野においてより高度に探求する専門科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。</p> <p>(1) 研究を通しての教育を重視し、研究の全行程を通して専門分野への学識を深め、コミュニケーション能力を増強するための特論科目を配当する。</p> <p>(2) 指導教授または指導准教授による密接な指導の下に、研究課題の選定から研究計画の立案、実験や調査など研究の実施、綿密な議論や考察、文献探索などを実践して博士論文を完成させるための科目として特別総合実験・演習科目を配当する。</p>